

令和6年度 第7回

洞爺湖町教育行政審議会議案

日 時 令和6年10月31日(木) 13:30~  
会 場 洞爺湖町役場3階 第2委員会室

<会議次第>

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 議事

(1) 洞爺湖町立学校の適正配置と校舎施設について 別紙資料①

(2) 学校給食センターに係って 別紙資料②

(3) 洞爺湖町内プールに係って 別紙資料③

4 その他

5 閉会

## 資料① 洞爺湖町立学校の適正配置と校舎施設について

### (1) 洞爺湖町の小中学校における子どもと学校のあり方についての提言（平成 25 年 1 月）

洞爺湖町の将来を担う子どもたちにより良い教育条件、教育環境の整備について、今後の児童生徒数の推計を見据えながら、適正配置の前提となる小中学校の適正規模等について提言がまとめられた。

#### 1 学校種別の視点

検討時点では、学校教育法の改正前で小学校、中学校それぞれの教育目標が示されていたことから、「小学校、中学校を区分してそれぞれ検討」することとした。

#### 2 検討対象校の視点

町内に特認校等の特殊事情を有する学校がないことから、「町内全 6 校を検討対象校」として検討することとした。

#### 3 学級数の視点

普通学級の学級数を基準とし、次の基準に基づき検討することとした。

	望ましい学級規模	原則として存続する学級規模	原則として統廃合を検討する規模
小学校	12 学級(各学年 2 学級)	6 学級(各学年 1 学級)	5 学級以下(複式学級配置校)
中学校	6 学級(各学年 2 学級)	3 学級(各学年 1 学級)	2 学級以下(複式学級配置校)

#### 4 児童生徒数の視点

「学級規模検討に合わせて、児童生徒数の教育環境に与える影響も考慮する」ことが大切であるとし、明確な児童生徒数の基準を設けずに検討することとした。

#### 5 通学時間の視点

現状のスクールバス運行状況を考慮するとともに、今後は、地域の状況によりこの通学基準によらない柔軟な対応が必要となる場面がでることも想定されるとし、次の基準が示された。

- ・ 小学校 …………… 45 分程度（スクールバス利用）
- ・ 中学校 …………… 45 分程度（スクールバス利用）

#### 6 地域性の視点

「地域事情を十分に考慮し、地域の声を尊重する」として、行政と地域間の理解を促すこととした。

#### 7 施設整備の視点

「安全のための施設確保、適正配置、財政の適正運用を総合的に検討」として、効果性とともに効率性も検討する必要性を示すこととした。

## (2) 洞爺湖町内小中学校の適正配置計画（平成26年12月）

前述の提言に示された「今後、適正配置に取り組んでいく際には、地域とのしっかりした議論を踏まえ進めるように」を踏まえ、教育委員会として保護者の意見等を伺い適正配置の素案を作る方針を決め、4回の懇談会を開催した。

虻田小学校	児童数は、緩やかに減少してくるが、各学年1学級の規模を維持できる見込みであり、現状を維持することが適当と考える。
温泉小学校	児童数は、若干の減少とともに、学級編制においては、2つの複式学級が続くことが見込まれており、また、洞爺湖温泉中学校の統合についてこれから検討されるなど、地域の教育環境も大きく変わっていくことが想定されることから、当面は現状維持を図ることとし、適正配置については、引き続き、保護者や地域の皆さんと協議を進めることが適当と考える。
とうや小学校	児童数は、若干の減少とともに、学級編制においては、1つの複式学級が続くことが見込まれているが、仮に虻田地区の小学校と統合するとしても、通学時間が現状の45分程度を解消することは困難であり、逆に児童の体力的、精神的な負担が増すことが想定される。また、とうや小学校は保護者や地域と学校が一体となって教育活動を展開するなど、とうや小学校の洞爺地区における存在は非常に大きいことなどを踏まえ、現状を維持することが適当と考える。
虻田中学校	生徒数は、緩やかに減少してくるが、各学年1学級の規模を維持できる見込みであり、現状を維持することが適当と考える。
洞爺湖温泉中学校	<p>生徒数は、若干の増加となるが、全学年で20名前半と見込まれており、保護者との懇談会では、一定の生徒数で部活動ができることや切磋琢磨する環境などが必要とのことから、教育委員会が積極的に統合を進めるべきとの意見が大多数であった。</p> <p>このような状況を踏まえ、洞爺湖温泉中学校については早急に統合を進めることとし、統合先は虻田中学校とする。統合にあたっては、少人数の学校から大人数の学校に移ることとなることから、先ず第1に在校生がスムーズに統合先の虻田中学校に馴染むことができるよう相当の期間をとって対応すべきことや、また、受け入れ側となる虻田中学校における準備、さらには閉校となる温泉中学校の地域的行事対応等を考慮し、統合の時期については、平成28年4月1日とする。</p> <p>また、花和地区在住の生徒については、洞爺地区の保護者との懇談会で、洞爺地区の学校へ通学できるよう学区の変更も検討すべきとの意見もいただいたことから、当該花和地区の保護者等の意見を踏まえ、対応することが必要である。</p>
洞爺中学校	生徒数は、若干減少し、全学年で30名程度と見込まれているが、父兄や地域と学校が一体となって教育活動を展開するなど、洞爺中学校の洞爺地区における存在は非常に大きいことから、当面は現状維持を図ることとし、適正配置については、引き続き、保護者や地域の皆さんと協議を進めることが適当と考える。

### (3) 洞爺湖町学校施設長寿命化計画（平成31年3月）

洞爺湖町内学校施設の老朽化状況等を把握し、中長期的な更新・維持管理費や学校施設運営全体のトータルコストの削減及び予算の平準化を図りつつ、各学校施設の改築、長寿命化改良、大規模改造、修繕等の優先順位を勘案した学校施設の長寿命化を図ることを目的に策定された。

#### ○ 目標使用年数、改修周期の設定

建物の劣化状況、今後の施設整備に係る費用の見込みなどを踏まえ、今後の学校施設の目標使用年数、改修周期について、以下のように設定します。

	目標使用年数	大規模改修の周期	長寿命化改良の周期
校舎	80 年	築 20 年	築 40 年
体育館	80 年	築 20 年	築 40 年

### (4) 洞爺湖町内各学校の建設年と経過年数

	虻田小	温泉小	とうや小	虻田中	洞爺中
建設年	1986 年(S61)	2002 年(H14)	1967 年(S42)	1967 年(S42)	1981 年(S56)
経過年数	38 年	22 年	57 年	57 年	43 年

### (5) 洞爺湖町における児童生徒の推移

	H24	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
虻田小	283	256	251	227	213	186	177	170	160	153	157	142
温泉小	46	44	39	35	33	38	33	37	36	37	35	31
とうや小	67	68	59	62	57	55	55	58	60	64	66	65
小学校計	396	368	349	324	303	279	265	265	256	254	258	238
虻田中	162	158	148	156	134	160	137	132	114	121	106	84
洞爺中	29	35	36	33	30	30	30	36	31	30	26	30
中学校計	216	197	184	189	164	190	167	168	145	151	132	114

	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19
虻田小	144	144	144	132	124	108						
温泉小	31	29	30	26	26	22						
とうや小	69	38	38	61	56	43						
小学校計	244	241	242	219	206	173						
虻田中	71	83	80	94	92	93	81	81	81	77	69	49
洞爺中	27	31	29	33	31	30	28	24	24	17	10	3
中学校計	98	114	109	127	123	123	109	105	105	94	79	52

## (6) これまでの教育行政審議会の意見より

### ①教育施設、予算、小中一貫教育に向けて

- ・児童数の減少が顕著である。10年前に策定された提言と現在の状況は大きく異なっている。特に小中一貫教育という教育の環境も変わっているので、その計画も含めて見直しが必要。
- ・小学1年から中学3年までの連続性、また地域性の関わりを含め、大切な議論になってくる。
- ・未来の洞爺湖町の子どもたちのためにも、教育予算を何とか確保するべき。
- ・小学校・中学校の統合により、共通の行事や交流を促進し、協力関係を築くべき。
- ・議論を先延ばしにするのではなく、子どもたちに必要な施設を早急に整備する必要がある。

### ②各学校の校舎についての意見

#### 【各学校ごと】

虻田小学校	<ul style="list-style-type: none"><li>・虻田小学校が、あと15年後20年後に耐えられるかどうかは疑問。</li><li>・義務教育学校となると学校の閉校準備と開校へ向けての一定程度の準備期間は必要となる。</li></ul>
温泉小学校	<ul style="list-style-type: none"><li>・温泉小学校は設備が新しいものの規模が小さいため、施設の活用方法について検討が必要。</li><li>・小規模校で子どもの成長を見守り、主体性を育むことを考えたら、ある程度の人数の中で学んでいくことも大切である。</li></ul>
虻田中学校	<ul style="list-style-type: none"><li>・虻田中学校は老朽化が進んでおり、令和8年に虻田小学校の余裕教室に移転する予定。</li><li>・虻田中学校と虻田小学校を一体化する際に、小中一貫教育の実施についても段階的に進めるべき。</li><li>・虻田中学校の移転を一つのモデルとして、それを基にどうするか考えていく必要がある。</li></ul>
とうや小学校	<ul style="list-style-type: none"><li>・洞爺地区においても、小中一貫教育の流れがあるが、現状では中学校を小学校に統合することが難しい状況である。</li><li>・とうや小学校も同様に補修を行いながら使っているが、今後の10年、15年耐えられるとは考えにくい。将来を見据えた議論を今ここで行う必要がある。</li><li>・洞爺中学校と洞爺小学校の統合は現状では困難であり、校舎の新設が必要である。</li></ul>
洞爺中学校	<ul style="list-style-type: none"><li>・洞爺地区において、別々の小学校、中学校で小中一貫教育を実施するメリットが感じられない。</li><li>・洞爺地区において、分離型の小中一貫教育もあるが、予算がかけられるとすれば一体型もある。メリット、デメリットを確認しながら答申に入れていくことが大切である。</li></ul>

#### 【温泉小の活用・集約】

- ・令和20年度には洞爺中学校が複式学級になる見込みであり、洞爺地区の施設についても再配置を検討する必要がある。例えば、洞爺湖温泉小学校の新しい施設を活用する、あるいは財政状況が厳しければ全てを本町に集約するなど、具体的な決断が求められる。

## 資料② 学校給食センターに係って

### 1 学校給食センターのこれまでの経緯

#### ①平成 18 年 合併協議

給食センター施設については、現状のまま新町に引継ぎ、当面は2箇所での運営とするが、施設の老朽化や経費の節減のため、1ヶ所に統合して運営していくことが望ましいので、新町において統合を検討する。

#### ②令和 3 年度 洞爺湖町学校給食センターに係る検討委員会

[単位 千円]

(ア) 新築案	(イ) 虻田改修案	(ウ) 洞爺改修案
895 m <sup>2</sup> 程度	改修のみ(増築なし)	40~50 m <sup>2</sup> 増築
840,000	78,000	208,000

災害時や財政的な視点などから検討委員会で協議し、洞爺給食センターを増改築することの提言

#### ③令和 4 年度

- ・アレルギー対応が可能な施設
- ・地産地消、地場野菜の活用（加熱用、非加熱用の区別）
- ・給食提供の継続（調理機器の増）
- ・季節感、郷土料理等の献立（調理機器の増）
- ・食育の推進（見学室の設置）
- ・現場が働きやすい環境（コンテナ方式、洗浄機の増）

#### ④令和 5 年度

- ・基本設計の発注
- ・500食利用できる必要最小限の図面
- ・図面が提示

#### ⑤令和 5 年度 学校給食センター統合時期の見送りについて

当初の想定から規模、費用（基本設計後、増築面積 約430m<sup>2</sup> 概算工事費 約13億円）ともに大きくかけ離れているため、実施時期を含め庁内で優先順位を再度協議。統合する時期等については、現在の給食センターが両方とも使えることから、小中学校の老朽化や他の公共施設等も含めた全体の中で、教育行政審議会に諮りながら方向性を定めて行く。

#### ⑥令和 6 年度

小中学校の老朽化や他の公共施設等も含めた全体の中で、教育行政審議会に諮りながら方向性を定めていきたい。

### 2 洞爺湖町の給食センターの概要

	虻田給食センター	洞爺給食センター
構 造	RC(鉄筋コンクリート造)	S(鉄骨造)
総床面積	400 m <sup>2</sup>	392 m <sup>2</sup>
建築年	S59 年	H12 年
経過年数	40 年	24 年
調理能力	800 食	300 食
調 理	直 営	直 営
米 飯	委 託	自 炊
調理食数/日	359 (R6)	120 (R6)
配 送	委 託	直 営
提供学校数	小学校2、中学校1、虻田高校	小学校1 中学校1
職員数 (R6 町職員)	事務職員(町職員1名・会計年度1名) 栄養教諭1名(道教委職員)	事務職員(町職員1名) 栄養教諭1名(道教委職員)
職員数 (R6 調理員)	会計年度職員 7名 パート職員 2名	会計年度職員 3名 パート職員 1名
R5 経費等 (単位：千円)	人件費 18,531 需要費・役務費・委託料等 21,634 運営経費合計 40,165	人件費 8,029 需要費・役務費・委託料等 14,816 運営経費合計 2,2845

※需要費(消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕等)、役務費(通信運搬費、手数料)

### 3 北海道内の広域設置または業務委託の状況

共同設置	室蘭市 登別市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室蘭市と登別市は令和11年(2029年度)の共用開始を目途に、共同調理場を広域で設置、運用することになる。(場所は室蘭市の八丁平)</li> <li>・室蘭市は開設から49年、登別は開設から57年経過。施設の老朽化</li> <li>・単独設置に比べ広域設置した方が財政的に優位性が高くなる。</li> <li>・1日8000食、2時間喫食が可能な配送車台数確保</li> <li>・建設コストの総額は57億円程度。運営費は25年間で109億円程度。</li> </ul>
	深川市 妹背牛町 秩父別町 北竜町 沼田町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北空知圏学校給食組合(深川市)</li> </ul>
	富良野市 中富良野市 占冠村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富良野広域連合[共同]</li> </ul>
業務委託	壮瞥町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊達市に委託</li> <li>・委託料は1,700万円。配送含め全て委託している。</li> </ul>
	雨竜町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新十津川町に委託</li> </ul>
	赤井川村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仁木町に委託</li> </ul>
	喜茂別町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京極町に委託</li> </ul>
	和寒町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・士別市に委託</li> </ul>
	奈井江町 上砂川町 浦臼町	<ul style="list-style-type: none"> <li>・砂川市に委託</li> </ul>

### 4 今後、考えられる例として

	案	内容	
①	新築案(R3検討委員会案)	虻田、洞爺をそれぞれ廃止して新たに設置	
②	虻田改修案(R3検討委員会案)	洞爺を廃止して虻田に集約、共同調理場	
③	洞爺改修案(R3検討委員会案)	虻田を廃止して洞爺に集約、共同調理場	
④	近隣と共同設置	豊浦町と共同設置	
⑤	近隣市町へ業務委託	伊達市へ業務委託	
⑥	民間委託	調理、運搬、物資購入管理、食器洗浄、ﾎｰﾙ-管理等を民間委託	



## 資料③ 洞爺湖町プールに係って

### 1 現状と課題

洞爺湖町内のプール施設には、町プールと学校水泳プールがありますが、どちらも老朽化が進んでおり、維持管理に多くの課題を抱えています。利用者数も年々減少しており、財政的な負担が増大している状況です。特に、学校水泳プールは耐用年数 35 年を超過しており、安全面の問題（水槽の変形や鉄骨などが進行）から令和 2 年度より使用が休止されています。

### 2 利用状況

(1) 町プールの利用者数は平成 26 年度と比較して令和 5 年度で約 40%減少しています。学校プールも利用者数が低迷しており、近年は主に学童保育や障害児施設が利用しています。また、令和 5 年度には小学校での水泳授業が各学年で 2-4 回実施されましたが、中学校での授業は行われていません。

#### (2) 利用者数の推移

施設名	R1	R2	R3	R4	R5
洞爺湖町プール(虻田地区)	3,438	休止	休止	1,413	2,930
学校水泳プール(洞爺地区)	1,030	休止	休止	休止	休止

※ 学校以外の利用では、学童保育などが利用している。

※ 一般の利用者数 475 人（6月 45 人、7月 152 人、8月 179 人、9月 99 人）

### 3 開館日に係って

- ① 令和 6 年度の開館日は 6 月 15 日(土)～9 月 30 日(月)であり、夏休みは毎日実施
- ② 6 月～7 月は木曜日が休館、9 月は火曜と木曜を休館
- ③ 今年度の開館日数は、6 月 14 日間、7 月は 27 日間、8 月 30 日間、9 月 22 日間  
合計 93 日

※令和 6 年度の利用状況 3026 人あり、1 日平均利用者数は 33 人（3026/93）

※また令和 6 年度は壮瞥小学校が利用した。（プールの老朽化のため）

### 4 町立学校における水泳授業のあり方

#### ① 洞爺湖町プールにおける各学校の利用状況(R5 年度)

学校名	回 数	備 考
虻田小学校	3 回	2～3 年は 2 回
洞爺湖温泉小学校	4 回	
とうや小学校	3 回	

#### ② 学校における水泳授業

適切な水泳場の確保が困難な場合には、「水遊び」及び「水泳運動」を取り扱わないことができるが、水泳の事故防止に関することなど安全に行うための心得については、必ず取り上げることとしている。

#### (参考) 水泳運動・水泳 学年ごとの指導内容

	学年	指導内容	
小学校	1～2 学年	水遊び	水につかる、移動する、浮く、潜る、息を止めたり吐いたりする
	3～4 学年	水泳運動	浮き方や蹴伸び、初歩的な泳ぎ
	5～6 学年	水泳運動	2 泳法（クロール、平泳ぎ）
中学校	1～2 学年	水泳	4 泳法（クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ）
	3 学年	水泳	複数の泳法で泳ぐ又はリレー

※ 町内中学校では、専用の学校プールがないため、他の競技に代替している。

## 5 財政面の課題

- ① 町プールの維持管理費は年間約 500 万円、学校水泳プールは約 170 万円となっており、集約化により財政負担の軽減が期待されています。

### 財政的な負担

(万円)

施設名	H30	R1	R2	R3	R4	R5
洞爺湖町プール	616	426	52	56	527	438
学校水泳プール	161	190	13	8	8	8

## ② 学校水泳プールについて

- (ア) 施設の老朽化によって水槽に亀裂やタワミなどが生じたもので、安全面を考慮すると修繕することが必須事項となっており、専門業者並びに洞爺湖町の建設担当者と修繕について協議をしたところ、この修繕には多額の修繕費がかかる。

(概算見積もり：修繕費は 5000 万円程度かかる見込み。)

- (イ) 令和 6 年度、とうや小と温泉小はスクールバスを利用して洞爺湖町プールを利用

## 6 胆振管内の状況

### ① 学校プールの共同利用

豊浦町（豊浦小学校←礼文小、大岸小）

### ② 公営プールの活用（伊達市[伊達小と伊達西小 学校プールの老朽化]、室蘭市、登別市）

むかわ町は「道の駅（四季の館）」内プール（指定管理）を使用

### ③ 壮瞥小は洞爺湖町プールを使用（R6）

## 7 プール集約化の手法

- (1) 洞爺湖町プールは築 34 年を経過しており、老朽化が進んでいるが、当面の間必要な修繕を実施して学校水泳プールの代替施設とする。

[メリット] ・学校水泳プールの維持費が削減される。(年間 170 万円)  
・学校水泳プールの修繕費が削減される。(5000 万円程度)

[デメリット] ・バスの移動時間が長い(洞爺地区から町民プールまで、約 17km 約 30 分)

### (2) 近隣の公共施設

伊達市では、平成 26 年に総合体育館に併設されたプールがある。虻田地区から約 15km、洞爺地区から約 30km 離れている。

[メリット] 町内プールの維持費が削減される。(年間 670 万円)  
温水プール、監視員がいる

[デメリット] バスの移動時間が長い